

【提言要旨】観光資源を軸とした「関西活性化モデル」の構築

はじめに

関西は歴史文化の宝庫であり、観光資源の豊富さは他地域に類を見ない。我々は、関西の強みである観光資源を「掘り起こし→発信→体験・体感」する循環を生み出し、これを「スパイラルアップ」させることで関西の活性化につなげる方策として「KAN×2モデル」を提言する。加えて、観光資源以外の強みについても、活性化の可能性について触れる。

現状と課題

・家計の形態別最終消費支出の構成は約20年の間に財(モノ)の割合が減少し、サービス(コト)が増加している。
 ・関西は国宝の56%、重要文化財の46%が集積している。豊富な観光資源に恵まれた関西は「コト」需要の喚起に適した国内屈指のエリア。
 →しかし、この「強み」を活用できていない。

「関西活性化モデル (KAN×2モデル)」を提言

○「宣言」から「資源の価値の掘り起こし→発信→体験・体感の好循環」を創造
 関西の強み(豊富な観光資源の魅力)の「掘り起こし→発信→体験・体感」の好循環を生み出すことで観光資源の魅力を高め、域内交流・域内消費を促し、経済活性化を導く。→(主な仕掛け)「関西歴史文化都市宣言」「関西観光文化(KAN×2)ポイントプログラム」「関西観光なび(KAN×2なび)」「学校教育カリキュラムの整備」など

【効果】年間平均旅行回数
 日帰り：1.62回 → 5.0回(目標)
 宿泊：1.43回 → 2.5回(目標)
 →観光消費1.9兆円の増

実施主体

産官学が共同で設立した第三者機関
 「関西歴史文化推進機構」
 観光以外分野に転用
 関西歴史文化産業推進機構
 [通称：VICTORY KANSAI]

資源の価値を掘り起こし、情報として蓄積する

・見る角度を変えることで関西の豊富な資源の価値を再認識し、その価値から紐解いた読みを与え、整理する(=掘り起こし)。
 ・掘り起こした内容は、オープンデータとして整理・蓄積。
 ・掘り起こしの手段として、オープンデータ、アイデアなどの手法を活用。
 →【効果】関西の住民からの能動的な資源の掘り起こしと情報発信を促進。

蓄積した情報を発信する

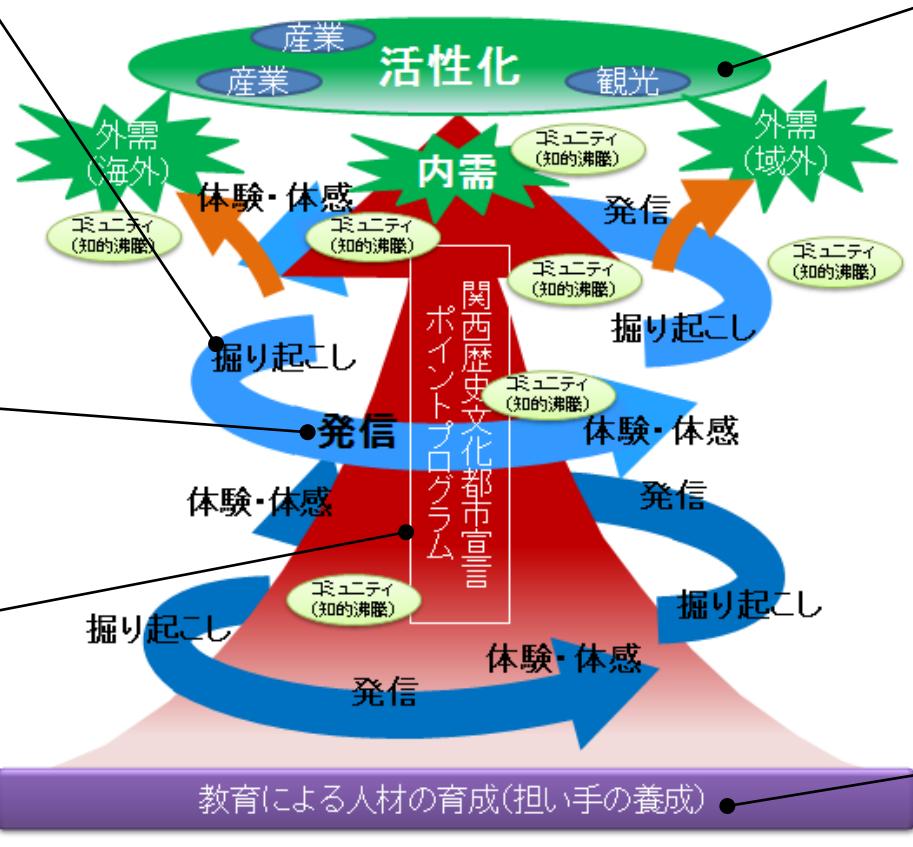
○WEBサイト「関西観光なび」(KAN×2なび)の開設
 ・いくつかのスポットを組み合わせた情報や自宅からの経路など簡単に把握。
 ・各府県に跨った情報を簡単に把握。
 ・個人のおすすめコースを随時募集し、公開。利用者の評価も把握。
 →【効果】関西の住民からの能動的な資源の掘り起こしと情報発信を促進。
 ○コンシェルジュセンターの設立
 ・情報発信機能を象徴する施設として都心部に設置。
 ・専任スタッフを配置。プレミアム体験が可能なサービスを有料で提供。
 ・来訪者と専任スタッフが相談しながらカスタマイズしたコースを作成。
 ・必要な予約やチケットも手配。

関西観光文化 (KAN×2) ポイントプログラム

・参加者は施設を訪れ、スマートフォンをかざし、「KAN×2ポイント」を獲得。
 ・ポイント交換のサービス・商品は、消費者の知的欲求をくすぐり、関西の歴史文化の奥深さを体験・体感できるものが主軸。
 ・ポイント獲得や使用のデータはマーケティングデータとして加盟施設に提供。施設は旅行者に合わせたイベントのロジックや新サービス・商品の開発に取組み、集客や価値の創造につなげる。
 ・掘り起こし、発信の取組みにも活用。
 「オープンデータイベント参加でポイント付与」「アイデアイベントにおける優秀なアイデアにポイント付与」「『KAN×2なび』に投稿された人気コースにポイント付与」など。
 →【効果】参加者が歴史、文化資産などを訪れ、多くの人が体験・体感の機会を継続的に増やしていくためのインセンティブにつながる。掘り起こしや発信の動機づけとなり、活発な活動につながる。

「KAN×2ポイントプログラム」は「掘り起こし→発信→体験・体感を」有機的につなげて好循環をつくり、「KAN×2モデル」を推進する原動力となる。

【観光資源を軸とした 関西活性化モデル(KAN×2モデル)】



観光以外の分野への転用



「KAN×2モデル」で成長したクオリティの高い人材を需要創造の担い手として輩出し、「KAN×2モデル」を観光以外の産業に拡張し、新たな需要創造につながる仕組みを整備する。

○掘り起こし資源の拡大と「関西資源発掘ポータル」の開設
 掘り起こし対象を需要創造に有用なあらゆる情報に拡張し一元的に集約。産業ごとに整理・提供する中間ポータルを開設。
 →【効果】活性化人材による需要創造活動を活性化する。
 ○産業ごとのスパイラルアップモデルの創出サポート
 ①「KAN×2モデル」のノウハウをベースとした事例の共有 ②知的交流の場の提供 ③バックに代表される価値・需要創造イベント開催などによる活性化人材のサポート環境構築。
 →【効果】斬新なアイデアや事業創造につなげる。

人材の育成

・フィールドワークと交流を柱とした学校教育カリキュラムの導入。
 ・カリキュラム推進役としての大学生ボランティアの活用。
 ・「KAN×2ポイントプログラム」参加を組み込んだ大学履修科目の追加。
 →【効果】各年代が重層的に絡み合い、担い手となる人材が持続的に生み出される。

一部の参加者は、歴史や文化の本質に繰り返し触れることで、多様な価値観が融合され、内面が磨かれたクオリティの高い人に成長する。
 →これらの人たちが交流し、コミュニティをつくり、知的沸騰の状態が生まれる。

【ポイントプログラムの利用イメージ】



【「KAN×2ポイントプログラム」フローのイメージ】

